

2024 年度 廃棄物資源循環学会 春の研究討論会参加案内

2024年度「春の研究討論会」は、2024年5月30日（木）、31日（金）川崎市産業振興会館で開催します。現在、廃棄物を取り巻く環境が大きく変化する流れの中で、対象とする分野も広がり、それに伴い廃棄物資源循環学会に設置されている研究部会数も14まで増え、部会活動が活発化しています。本学会では、研究部会活動の促進および支援の観点から、部会活動の発表の場を提供することを目的として「春の研究討論会」を開催しています。それぞれの分野における最新の話題や興味深い話題に対して討論を行うことにより、より一層社会と連携し循環型社会の形成や廃棄物問題の解決を目指していきます。

日常生活から社会の生産活動に至る廃棄物の諸問題や資源循環に纏わるテーマについて、研究機関、市民、企業、行政のさまざまな立場からの研究討論を通じて理解を深めたいと思います。多くのみなさまのご参加をお待ちしております。

なお、最新情報は学会ホームページ (<https://www.jsmcwm.or.jp>) にてご確認ください。

- 主催：（一社） 廃棄物資源循環学会
- 開催日：2024年5月30日（木） 11:30～17:30
2024年5月31日（金） 10:00～12:00
- 開催場所：川崎市産業振興会館 1階ホール会場および9階セミナー室
住所 〒212-0013 神奈川県川崎市幸区堀川町 66-20
電話 044-548-4111
最寄駅 JR川崎駅西口 徒歩8分、京急川崎駅 徒歩7分



- 定員
ホール会場は358名、セミナー室会場は90名（事前申込制）
*各セッションに関して、同時にZoom配信を行います。

【会場参加者へのお願い】

・発熱・倦怠感・胸部不快、咳・くしゃみ・鼻水等の症状がある場合は来場せずオンラインで参加してください。

- 参加申込方法
学会ホームページ (<https://www.jsmcwm.or.jp/>) からお申込みください。

- 参加費：無料

● プログラム：

5月30日(木)

会場	11:30～12:45	午後(13:00～15:00)	午後(15:30～17:30)
ホール (1階) 358名	ランチセッション 「～“あの先生”と気 楽に話せる交流会～」 企画運営委員会 (別室：4階展示室にて 開催)	セミナーA【Zoom配信】 廃棄物計画研究部会，（一社） エネルギー・資源学会との共催 「地域脱炭素達成のための資源 循環と再エネ導入」	セミナーC【Zoom配信】 行政研究部会， 災害廃棄物研究 部会 「災害廃棄物研究の動向と今後 の展開」
セミナー室 (9階) 90名		セミナーB【Zoom配信】 環境学習施設研究部会 「施設(工場)見学事例紹介」	

5月31日(金)

会場	午前(10:00～11:30)	午後(13:00～16:30)
ホール (1階) 358名	セミナーD【Zoom配信】 廃棄物資源循環学会員有志 「ゴミ箱サミット ～ゴミ箱 の向こう側にある資源循環 ～」	学会賞授賞式 総会 受賞講演
セミナー室 (9階) 90名	セミナーE【Zoom配信】 埋立処理処分研究部会 「『廃棄物最終処分場廃止 基準の調査評価方法』2024 年改訂版の初稿について」	

ランチセッション～“あの先生”と気楽に話せる交流会～

(企画運営委員会)

当学会では、サーキュラーエコノミーや脱炭素、災害廃棄物、リサイクル等の分野のフィールドでご活躍されている“あの先生”と、各自持参のランチを食べながら、気楽に話せる交流会を企画しました。“あの先生”のお話からスタートして、参加者の皆さんが思っている疑問や意見に寄り添いながら、交流を深めていきます。シャイなあなたでも、まずは聞くだけでもOK。明るくて楽しい“あの先生”とお近づきになれるチャンスかも。

※ 恐れ入りますが、事前申し込み（交流テーマの希望をお聞きます）を優先します。

プログラム（予定）（敬称略）

1. 全体企画主旨説明 10分
2. 各グループで交流 60分

主な交流テーマ（予定）

- ①災害廃棄物、能登半島地震など
岡山朋子（大正大学）× 鈴木慎也（福岡大）
 - ②廃棄物関連の企業目線からの課題、若手に伝えたいことなど
渡辺信久（大阪工業大学）× 古林通孝（日立造船株式会社）
 - ③リサイクル、資源循環
斎藤優子（東北大学）× 中久保豊彦（大阪大学）× 藤山淳史（北九州市立大学）
 - ④地域循環・脱炭素の課題～多くの自治体の方の悩みごと～
石井一英（北海道大学）× 秦美和子（株式会社エックス都市研究所）
3. 参加の御礼 5分

セミナーA 地域脱炭素達成のための資源循環と再エネ導入

(廃棄物計画研究部会、エネルギー・資源学会との共催)

概要：地域脱炭素を達成するために必要とされている地域内の「資源循環」と「再エネ導入」を高めていくためには、地域で発生する廃棄物等の特性（量や質、分別協力）、再生可能エネルギーの特性（偏在、変動）、エネルギー需要特性等の地域特性に応じた議論が重要です。今回、エネルギー・資源学会と廃棄物資源循環学会の廃棄物計画研究部会が合同で、脱炭素を達成するための資源循環と再エネ導入について議論する場を設けました。さまざまな分野の皆さんと広く意見交換できれば幸いです。どうぞご参加のほど、よろしくお願いいたします。

プログラム（予定）（敬称略） 司会：稲葉陸太（国立環境研究所）

- 1) 開会挨拶 廃棄物計画研究部会長 石井一英（北海道大学）
- 2) 話題提供（@15分）
 - ・プラスチックリサイクルの最近の課題と展望：塚原沙智子（環境省）
 - ・脱炭素先行地域の取組み：調整中（苫小牧市）
 - ・廃棄物エネルギー変換技術の動向（予定）：原田浩希（京都大学）
 - ・ごみ発電と地域エネルギー事業：吉岡剛（芝浦工業大学）
- 3) パネルディスカッション 上記話題提供者、松橋隆治、石井一英
 - ・双方の活動紹介（5分×2）
 - ・ディスカッション
- 4) 閉会挨拶（一社）エネルギー・資源学会 松橋隆治（東京大学）

セミナーB 施設(工場)見学事例紹介

(環境学習施設研究部会)

概要：全国の廃棄物施設（一般、産廃を含むごみ処理施設等）における施設(工場)見学に焦点をあてて、施設関係者とともに情報交流を行うことを目的に、セミナーを開催いたします。施設のみなさまが、どのように施設(工場)見学を運営されているのか、創意工夫や特徴的な運営方法等について紹介いただきます。また、継続事業であった「環境学習施設ハンドブック」(仮称)も、出版の目途が立ちましたので、報告させていただきます。

プログラム(敬称略)：(約2時間) 司会・進行 本研究部会代表 花嶋 温子(大阪産業大学)

テーマ：「施設(工場)見学事例紹介」



1. 基調講演 「うちの施設見学・実践紹介」(約60分：各15分×4施設)
枚方市 環境部 東部資源循環センター(枚方市 東部清掃工場) 早田佳孝
エコ・エデュテイメントパーク くるくるシティ 松田商店 代表取締役 松田多永
バイオマス資源化センターみとよ 株式会社エコマスター 執行役員 鎌倉秀行
多摩ニュータウン環境組合リサイクルセンター(エコここセンター) センター長 江尻京子
2. 施設(工場)見学についての討議 (約45分) 司会・進行によるコーディネート
3. ハンドブックの出版状況について 本研究部会幹事 山口茂子(川崎重工業株式会社) (約10分)
4. 本研究部会の本年度活動について 本研究部会 事務局 (約3分)

セミナーC 災害廃棄物研究の動向と今後の展開

(行政研究部会、災害廃棄物研究部会)

概要：

2024年1月1日に能登半島地震が発生し、多大な被害をもたらされました。被害が大きかった石川県では、約7年分に相当する240万tの災害廃棄物が発生したと推計されており、2025年度末での処理完了を目標として、適正かつ円滑・迅速な処理が求められています。

災害廃棄物研究については、1995年の阪神・淡路大震災をきっかけに研究が本格化し、その後東日本大震災、西日本豪雨災害等の大災害を経て、さまざまな知見が蓄積され、災害廃棄物処理計画の策定率も上昇するなど、処理支援のための骨格が固まりつつある状況にあります。一方で、災害廃棄物は、災害の種類と被害の甚大さ、地域性等の要因から、発生量、発生する廃棄物の種類は大きく異なり、画一的な対応では適正処理としては不十分なケースが多く見受けられます。同様に、学術論文においても、そのまま現場で活用されることは難しく、今後の災害廃棄物研究のあり方、現場としてのニーズ等を改めて整理する必要があると考えられます。

そこで本セミナーでは、行政研究部会と共催で「災害廃棄物研究の動向と今後の展開」と題しまして、これまでの災害廃棄物研究の動向を整理するとともに、コンサル・行政視点から有益な情報は何か、より求められる研究は何か、研究成果を現場に活かすにはどうすればよいか、という点について参加者と情報共有を行い、今後の災害廃棄物研究の方向性、最適な災害廃棄物処理支援のあり方に反映させることを目指します。

プログラム：(予定) (敬称略) 司会：田畑 智博(神戸大学)

1. 開会挨拶
2. 話題提供①「災害廃棄物研究部会のこれまでとこれから」 鈴木 慎也(福岡大学)
3. 話題提供②「災害廃棄物研究の動向」 坂井 友里江(国際航業株式会社)
4. パネルディスカッション「行政視点から今後求められるもの」
コーディネーター 渡辺 浩平(帝京大学)
パネリスト 高田 光康(株式会社東和テクノロジー)
岡山 朋子(大正大学)
宇田 仁(環境省関東地方環境事務所)
荒井 和誠(東京都環境局)

5. 閉会挨拶

セミナーD ごみ箱サミット ～ごみ箱の向こう側にある資源循環～

(廃棄物資源循環学会員有志)

概要：

海外出張や国内でも街を歩くと、ついついごみ箱に眼が行ってしまう私たち。ごみにかかわって仕事をしている習性ですね。ごみ箱からは、その国や地域の廃棄物処理や資源循環の実情が透けてみえてきます。皆さんが写したお気に入りのごみ箱の写真を持ち寄って、ごみ箱からみえてくる国や地域のごみ処理や文化の違いを理解したり、私たち日本の将来のあり方等を考えたり、学会に集う仲間同士で楽しく議論してみませんか。是非とも奮ってご参加ください。

プログラム：(敬称略)

1. 開会のことば (国研) 国立環境研究所 大迫 政浩
2. 話題提供「ごみ箱からみる日独のごみ処理比較分析」 (国研) 国立環境研究所 大迫 政浩
3. 世界のごみ箱・分別箱写真展(消費者市民研究部会活動紹介) 環境・国際研究会 小寺 正明
4. ごみ箱の向こう側にある資源循環(ごみ箱写真紹介とフリーディスカッション)

大阪公立大学 水谷 聡
東北大学 齋藤 優子

他(募集中、当日会場からの飛び入り参加あり)

東北大学 吉岡 敏明

5. 閉会挨拶

*ごみ箱紹介者募集(先着3名程度)!

当日、ごみ箱写真を紹介いただける方を募集しています。お気に入りのごみ箱写真について、その国・地域のごみ処理の背景や個人的な思い出等、5分程度で紹介ください。ご希望の方は、以下の担当までご連絡ください。

セミナーE 『廃棄物最終処分場廃止基準の調査評価方法』2024年改訂版の初稿について

（埋立処理処分研究部会）

概要：

埋立処理処分研究部会より2002年3月に成果として公表した「廃棄物最終処分場廃止基準の調査評価方法」（当時代表：田中信壽）は、1998年6月に施行された「最終処分場廃止基準」について、考え方、調査測定、評価判断の考察と提案を示したものであり、廃止基準適合を判断する際に参考となる資料として活用されている。

それから20年以上が経過したいま、あらたに得られた知見に基づいて『廃棄物最終処分場廃止基準の調査評価方法』を改訂するため、部会内に設置した数値埋立工学ワーキンググループにて、2023年度は8回のミーティングをオンラインおよび対面で実施するとともに、春の研究討論会および研究発表会では、最終処分場の維持管理と廃止基準に関連して、「埋立物・構造・管理」「測定法」「判断基準」「跡地利用」等のキーワードを中心に意見交換を行ってきた。

本セミナーでは、こうしてまとめられてきた『廃棄物最終処分場廃止基準の調査評価方法』2024年度改訂版の初稿について、全体構成および改訂のポイントを各章の担当者が説明を行うとともに、改訂版の最終作業を進めるにあたっての課題と方向性について参加者と議論を行う。その結果を受けて修正等を行い、2024年9月の研究発表会にて、2024年度改訂版最終稿をお披露目する予定である。

プログラム：

- 『廃棄物最終処分場廃止基準の調査評価方法』2024年度改訂版の初稿の全体構成について
- 各章担当者による改訂ポイントの説明
 - 「序」および「第1章 最終処分場と廃止基準に関する概説」
 - 「第2章 構造及び防止措置基準の適合性調査・判定」
 - 「第3章 安定化要件適合性調査・判定」
（生活環境保全基準、地下水汚染防止基準、ガス発生非増加基準、温度非異常基準、浸出水（浸透水）の廃止水質基準）
 - 「第4章 廃止に向けたフォローアップ指標」
 - 「第5章 廃止後の措置」
 - 「用語集」
- 総合討論（質疑および改訂版の最終作業の課題と方向性の確認）